

JR連合に再び「葛西明」を名乗る人物から内部告発と見られる文書が届いた。差出人住所は前回と同様、JR総連の所在地である東京都品川区の住所であり、消印も前回同様、大阪市内からのものだ。今回届いた文書は、11月末に開催された、JR総連「近畿地方協議会」定期委員会における参加者の発言内容をメモにしたものであった。

その内容は、真実であれば極めて衝撃的なものであり、JR総連の「JRサービック労組」（以下、JS労）に対するスタンス等について、ある現役のJR東海労役員が、JR総連の山口委員長や熊谷書記長を名指しのうえ、痛烈に批判するというものであった。

～内部告発の文書が再びJR連合に送達～

JR東海労役員がJR総連を痛烈批判！？

実際に届いた文書を見てみよう。JR連合ではこの発言者とされる現役のJR東海労役員はある程度特定できているが、ひとまず彼をA氏とする。A氏はまず、JR東海労が9月に開催した「大弾圧、大量処分から30年！JR東海労の未来を切り開く9.10集会」に触れている。その集会では山口JR総連委員長が来賓挨拶を行い、JS労に言及したそうだ。A氏は、「よ～作ってくれた」と褒められると思ったとのことだが、「ボロクソ」に言われ、非常に驚いたそうだ。

加えてA氏は、山口委員長がJR総連「東海地方協議会」定期委員会の来賓挨拶において、JR連合がJS労の情報を記載した「民主化闘争情報 No. 1037」（11/17付）に対し、「私たちの闘いにケチをつけるな」と発言したことを取り上げ、「私たちは、山口委員長に『私たちの闘いにケチをつけるな』と強く言いたい」と痛烈に批判した。これほど明確に、かつ多くの人間に聞こえる形で加盟単組が上部機関を批判することは通常ならば考えられない。つまり、本件について、JR東海労とJR総連の間には相当深い溝があるということだろう。

熊谷JR総連書記長の目の前でJR総連を批判か

さらにA氏は、前述の「民主化闘争情報」で記載したJR総連の「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」を取り上げ、JS労の結成をJR総連が「組織破壊」とまで言及していることについて、「情けなくて、悔しくて、怒り心頭になりました」と怒りを露わにしている。加えてこの近畿地協定期委員会に来賓参加していた熊谷JR総連書記長を名指しの上、「熊谷書記長！この『緊急声明』はJR総連が作られたものですよ？JR総連は、JS労結成について、JR連合の『民主化闘争情報』に書いてあるように、来年1月26日に開催されるJR総連の中央委員会で統制処分なども考えているんですか？ぜひハッキリ教えてください」と指摘し、「山口委員長やJR総連の皆さんに言いたいのです。私たちの闘いの邪魔せんといってください！足を引っばらんといってください」「私たちが、会社に対して精一杯闘ってるのに、味方のはずの山口委員長、JR総連が後ろから鉄砲撃ったらアカンでしょう」と痛烈に批判したようである。

JR東海労は臨時大会でJS労を承認か!?どうするJR総連!?

A氏は、JR東海労が12月14日に臨時大会を開催し、JS労の承認を行うことにも言及している。既にJR東海労の機関紙等にもその旨が記載されている所を見ると、JS労の承認について、JR東海労全体で方針としての意思統一がある程度出来ているのだろう。しかしながらJR総連は、JS労について、前述の通り「組織内組織の組合結成を認めない緊急声明」という声明を出しているほか、加盟単組では、同趣旨の「新組合結成に関するJR総連見解」を機関決定しており、JR東海労の方針はこの機関決定に明らかに反している。それでもなお、JS労承認を推し進めるのならば、JR総連とは決裂必至の状況に陥るだろう。加盟単組役員がJR総連を痛烈に批判するのは極めて異例だが、決裂を念頭に置いているのならば、理解できなくもない。

こうしたJR東海労の反JR総連的な取り組みに対し、JR総連は、表向きは未だ沈黙を貫く。かつてのJR総連であれば、「組織破壊」行為は即座に是正されたはずだが…。「松崎明」という大黒柱を失い、10数年が経過する中、もはや組織の統制力も失われているのだろうか。

いずれにしても、JR総連が実際にJR東海労に対し、どのような判断を下すのか。また、JR総連の最大組織・JR北海道労組や、自組織に内部対立を抱え、「総団結」の必要性を説くJR貨物労組が黙ったままこれを見過ごすのか。事のなりゆきを、刮目して待とうではないか。